



神奈川県環境学習リーダー会

会 報

No. 42

2004 05 年
12 月 1 月

役員会報告 (事務局長 山田あや子)

12月役員会 (12月13日)

1. 12月19日の「かながわ地球環境賞表彰式および温暖化防止のつどい」で当会が表彰される。また当日、活動報告とパネル展示を行なう。
2. 地球温暖化防止対策WS、グリーン教育支援(仮称)事業が各対象校で無事終了した。
3. 3月開催予定の講演会について、地域活動サポート部が経過報告をした。開催地は、当初の茅ヶ崎市を白紙とし、再度開催地を検討する。香川役員が担当。名称は「地域交流会(案)」とし、講演会または勉強会にする。
4. 17年度「子ども環境体験教室」のメニュー応募が6件あった。年内に纏める。
5. 17年度総会は、17年5月14日(土)13時から開催。総会資料送付のため、会報43号は4月10日に発行する。役員立候補(自薦・他薦)受付記事を会報42号に掲載する。

6. 会費未納者宛に会費納入依頼の通知を事務局・会計が1月に出す。

1月役員会 (1月11日)

1. 16年度「第2回意見交換会」は、ひらつか市民活動センター会議室で3月6日13:30~16:30に開催する。参加者を会報42号で募集する。
2. 地域活動サポート部が「地域交流会」の概要説明をした。
3. 茅ヶ崎市主催「ちがさき環境フェア2005」へK・リーダー会が参加申請する(地域との交流、地域会員の活性化に有効であるから)。1月22日の実行委員会は安丸が代行し、実施内容等を次回役員会に報告する。
4. 「第11回市民環境活動報告会」の内容説明を黒澤実行委員長が行った。今回の新しい試みはポスターセッション(6グループ)の実施 発表者に一般市民の参加。内容等詳細はチラシ参照。

かながわ地球環境賞表彰式

地球温暖化防止の集い

(於・横浜市技能文化会館)

K・リーダー会代表 近藤 作司

平成16年12月19日(日)神奈川県及びかながわ地球環境保全推進会議(注1)主催の平成16年度かながわ地球環境賞の表彰式が行われました。今年度は16の団体が表彰されましたが、わが環境学習リーダー会も推進会議の実践行動部会(注2)の推薦により受賞することが出来ました。

この賞は、地球環境保全に向け、実践的な活動を行っている個人または団体を表彰するもので、平成5年から原則として毎年1回行われています。



本賞には表彰要綱が定められており、要約しますと;

1. 「新アジェンダ21かながわ」の11分野21目標のいずれかに該当し、その活動の業績または功労が顕著で他の模範となるもの
2. 活動は、原則として概ね5年以上継続し、かつ将来にわたり継続する見込みのあるもの
3. マイアジェンダ制度に基づきマイアジェンダ登録を行っている個人または団体
4. かながわ地球環境保全推進会議の構成団体の長は、表彰に相応しい候補者を主催者に推薦することが出来る

となっています。

当K・リーダー会は平成16年1月8日にマイアジェンダ登録し、主として9分野の活動を行っています。年間事業としては;

- 親子で楽しむ環境展
- 子ども環境体験教室
- 市民環境活動報告会
- 部会活動 大気環境、水環境、エネルギー、廃棄物・リサイクル、ケナフ、自然環境

地域活動サポート、広報
各種環境教育・環境学習

等々を行っており、今後とも継続するものであります。平成5年以來の伝統と実績が評価されたものとして会員の皆様と共に喜びたいと思います。

(注1) 神奈川では、1993年1月に我が国で初めてのローカルアジェンダ21である「アジェンダ21 かながわ」を採択し、その推進母体として「かながわ地球環境保全推進会議(推進会議)」を発足させました。

構成団体：

[県民部会]：神奈川県自然保護協会等 45 団体

[企業部会]：(社)神奈川県経営者協会等 10 団体

[行政部会]：神奈川県及び県内 37 市町村

(注2) 「新アジェンダ21 かながわ」では具体的な行動の広がりを重視し、推進会議の構成団体として[実践行動部会]が発足しました。当部会の会員は、新アジェンダの趣旨に賛同し、マイアジェンダを登録した個人、企業、学校、NPO等(但し県民部会、企業部会、行政部会に属する団体を除く)で構成しています。

同日午後、表彰式主催団体に神奈川県地球温暖化防止活動推進センター(かながわアジェンダ推進センター)が加わり、「地球温暖化防止の集い」が開催されました。

運営主体として「温暖化防止月間実行委員会」が組織され、マイアジェンダに位置づけられている 11

分野のうち主要テーマについて分科会形式で進められました。テーマとしては：

エネルギー グリーン購入
そら みどり・つち
環境教育

の5分野が選定されました。

K・リーダー会はそら分野の責任団体として参加し、大気環境部会の猪股部会長が活動事例を報告いたしました。(別掲参照)他の参加団体とテーマは、「かながわアジェンダ推進センター」の『アイドリング・ストップ・キャンペーン活動について』と「秦野の自然と環境を守る会」の『大気汚染の現状を知る、及びオオタカの保護』でした。

当分科会の参加者は22名、その内K・リーダー会会員は12名でした。報告の後、意見交換を含むワークショップを行い、今後に向けた次のアクション・プランを纏めました。

1. NOx・酸性雨測定、オオタカの生息数調査等は基礎データとして重要。測定の継続を。
2. アイドリング・ストップ・キャンペーン活動の県域への拡大、継続。
3. カーフリーデー参加。
4. 全国一斉1分間アイドリングストップ運動の展開。

最後に参加25団体が一堂に集まり、テーマ別ワークショップで検討した「今後に向けたアクションプラン」を発表して終了しました。

第4回親子で楽しむ環境展 団体・グループの出展参加募集！

副実行委員長 香川 興勝

会報41号でお知らせしました通り、“第4回親子で楽しむ環境展”～地球の未来のために～が下記要領で開催されます。

現在、展示・体験コーナーへの、より多くの団体・グループの出展参加を期待しています。

ご検討の上ご参加頂きたくお願いいたします。

なお、準備の都合上申込み締切日を2月20日(日)とさせていただきます。

出展参加希望団体・グループは下記申込み連絡先へ連絡をお願いします。

また、実行委員会では多くの方々に来場頂くことを願って企画・運営を検討しています。

詳細については、次号会報(43号)にてお知らせします。

会員の方々には、各種環境団体やグループおよび友人の方々に環境展への来場を呼びかけて下さいますようお願いいたします。

第4回親子で楽しむ環境展実施要領

1) 環境展：～地球の未来のために～
第4回親子で楽しむ環境展

2) 主催

- ・神奈川県環境学習リーダー会
- ・(NPO法人)かながわアジェンダ推進センター (主催予定)
- ・神奈川県 (主催予定)
- ・かながわ地球環境保全推進会議 (主催予定)

3) 開催日時：平成17年6月4日(土)

10時～16時30分

4) 開催場所：かながわ県民センター

1階展示場・102号室他

5) 実施内容：体験・展示、他(現在検討中)
団体・グループの参加申込み連絡先

〒250 0851 小田原市曾比2312-5

香川 興勝

TEL/FAX 0465 36-9027

E-mail yoshikatsu_kagawa@ybb.ne.jp

平成17年度役員の立候補(自薦・推薦)を受付けます

事務局長 山田 あや子

平成17年度の総会は5月14日(土)午後開催されます。(詳細は次号)

この総会で新しい役員を選出することになりますが、前もって同年度の役員立候補または推薦を皆様から受付けます。

「K・リーダー会」の役員として、運営に携わって下さる方、または、役員に推薦したい方がおられましたら、是非、積極的に事務局までお名前・修了期等をメールまたはFAXでお知らせ下さい。

宜しくお願いいたします。

受付締切り：2月20日(日)

連絡先：

〒243-0803 厚木市山際203-4

山田あや子

TEL：046-245-5563

FAX：046-245-5174

メール siro@jeans.ocn.ne.jp

平成16年度 第2回 意見交換会開催のご案内

事務局長 山田 あや子

昨年11月に開催した第1回目に引き続き、「第2回意見交換会」を下記の通り開催いたします。意見交換会では、これまで、様々なテーマでK・リーダー会発展のために意見を交換し、また、皆様との交流を深める場として参りました。

第12期の養成講座(環境学習リーダーおよび環境実践者)修了の方を迎え、今後ますますK・リーダー会の重要性が増す中、確かな歩みをして行くためにも、リーダーの皆様相互の「意見交換」が大切なことは言うまでもありません。

明年度の事業にも反映させて参りますので、是非とも皆様にご出席いただき、有意義な語らいの場と

して参りたいと思っております。皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時：17年3月6日(日)13:30~16:30

開催場所：ひらつか市民活動センター 会議室

内容：

1. 会員の環境活動ネットワーク化を推進するにはどうすべきか
2. どうすればK・リーダー会の活動に、多くの会員参加を望めるか
3. その他

終了後、懇親会を予定しておりますので、是非、ご参加ください。

第1回地域交流会開催のお知らせ

地域活動サポート部長 香川 興勝

地域における会員間の交流、地域活動の問題点を把握してK・リーダー会の発展をはかること、さらに、地域活動のネットワーク化をはかり効率の良い環境活動を展開するための礎とするため第1回地域交流会を下記の要領で開催します。

会員の方々の積極的な参加と協力を宜敷くお願い致します。

1. 第1回地域交流会：

“ 清らかな自然・水と語ろう会 ”

2. 開催日時：3月20日(日)13時~17時

3. 開催場所：ひらつか市民活動センター会議室

4. 開催内容：

1) 活動報告

・水の自然科学(水を取り巻く環境について)

齊藤 昭一氏 13:00~13:30

・丹沢と語り合う(森林、渓谷、川他の環境保全について)

古谷 敏夫氏 13:30~14:00

・他 検討中

2) 講演

・市民活動のための助成金応募ガイド

講師交渉中 14:15~15:00

3) 懇親会 15:30~17:00

詳細については、若干の変更が考えられますが、ご了承をお願いいたします。

グリーン教育支援環境教育実施報告（その1）

グリーン教育支援講座の1つの枠を担当して

岩田 寿郎（座間市）

茅ヶ崎市立梅田小学校では、グリーン教育、グリーン購入等 16 年度、既に 3 コマの授業を終え、あと 1 コマというところに、我々の“ 雑木林に竹林の進出を考えてみよう、加えて竹の利用法の 1 つとして竹を使った鉛筆立てを作ろう ” という提案を受け入れて戴いた。11 月 24、25 の両日である。

茅ヶ崎市立のこの学校は、海にも近く、平坦地であるゆえ、最早大きな緑地も無く、ほとんどが住宅地となっている。そのような小学校で森というものについて話した。

樹木が、水を貯めてくれると答える児童が多かったが、では、果たして、雨が降ると木は、水ぶくれになるであろうか？ 晴れが続くと、木はやせ細ってしまうであろうか？ と訊ねていくと、水は森の土によって抱え込まれるということが分かってくる。だから、森が水の災害から守ってくれていることも当然理解してくれる。自然を守る事とは、樹木は切ってはならない、と思いをしていた人には、成木は利用させてもらい、代わりに跡地に植林することをなせばよく、一斉皆伐よりは部分伐採で、年齢の差のついた樹木が育つことが、よい森になれそうだ、ということと共に学んだ。

人間のすむ所の近くにあった雑木林が、昭和 30 年代の半ばの燃料革命で燃料としても利用されず、落ち葉も肥料としての役目はずされると顧みられなくなり、人が入らなくなった。人里近くにあった竹林も竹製品がプラスチック製品に代替されるや、管理されず、放擲される羽目となった。日本人なら使ったカゴ・箕・ミニ竹垣・シシオドシも見てもらったし、竹炭も少量提供した。大雑把に言えば、人の手を離れてから雑木林と竹林の競争が起こり時間当たり生育の速い竹が雑木林に侵入していることを我々はそこらじゅうで、目にする。

竹を切ってマイ鉛筆立てを作る時間は、楽しんでもらえたようだ。竹を切るには、専用の鋸があることを話したし、道具は使い終わったならば、次の為に始末をすることも教えたつもりである。それにしても、この時期にこのような企画に着目して下さった先生方がおいでの学校であるから、児童生徒の皆さんも環境問題に少なからず関心をお持ちのように見受けられた。21 世紀の最大の問題は、環境問題にいかに取り組み、ゴミを減らした生活をする事かなのだ、と認識している。その意味でも先駆的にお考えの同校に敬意を表したい。

グリーン教育支援環境教育実施報告（その2）

「環境に良いこと」と「クリーンエネルギー」

北村 博子（横浜市）

実施校：川崎市立小田小学校

実施日：平成 16 年 11 月 30 日 10：45～12：20

対象学年：第 5 学年総合的な学習「環境に良いこと」
「クリーンエネルギー」選択児童

対象児童数：36 名

実施者氏名：児玉 勇、大森 勝、依田 毅、小田 勇
安藤 紘史、香川 興勝、北村 博子

実施場所：川崎市立小田小学校理科教室、同屋上

準備：9:40～10:40

実施内容

1) 環境教育

地球温暖化の現状・課題について

「知ろう 学ぼう 考えよう 地球温暖化」DVD 視聴、現状の温暖化問題の原因について学ぶこと



により、二酸化炭素を出している各自の生活を考える。

少エネと自然エネルギーについて ppt で学ぶ
家庭からのエネルギー種別二酸化炭素排出量を知って、各自の生活からの二酸化炭素排出量を削減することについて考える。

少エネカレンダーで「チャレンジ項目」を設定し、1ヶ月チャレンジする。

2) 自然エネルギー体験学習

太陽光発電、風力発電、太陽光による燃料電池の実験により、クリーンエネルギーを体験的に学ぶ。

ソーラークッカー製作

作製したソーラークッカーは、11:30~13:00まで屋上に設置実験したが、黒く塗った缶の中の水は62℃に温められた程度で、太陽光が不十分で、家庭での再実験を依頼して終了した。

* 太陽光発電、燃料電池、風力発電等の自然エネルギー実験機器類、プログラムは、神奈川県環境学習リーダー・エネルギー会から、提供を受け実施した。

グリーン教育支援環境教育実施報告(その3)

5年生でも侮れない勉強振り

猪股 満智子(鎌倉市)

平塚市立みずほ小学校5年1組と大気汚染

8月下旬に慌しく企画案を提出した事を忘れかけていた11月中旬、みずほ小への教育支援の連絡を受ける。都合よく下旬の部会・NO₂測定準備の席で部会員に補助講師役を募る一方、大森担当と再度事業計画書、及び具体的見積書を作成、県へ手続きに行ってもら。講師役への積極的な希望者もいて経験者が増えることは喜ばしいことではあったが、NO₂測定・分析と重なっている一方、実施日までの日取りの短さ、学校までの道程にも難点があり、誰でもというわけにはいなくなってしまう悩んだ。

30日放課後、学校に出向き校長先生にも立会っていただき担任と打合せ。「子ども達は本やインターネットで各自調べ学習をしている。ただし見えないものだけに実感ができない。それでこの企画を選んだ」と理由を。県担当官に「盛り沢山過ぎないか」と心配されただけに、児童の勉強振りを伺いほっとした。実施日も7、9日の各2時間授業を2日間と決まり、「夏の子ども体験教室」の企画をより深めた内容を試せることになった。

普段6班体制で勉強をしているのを尊重し、補助講師を経験した方にできる限り2日間同じ班をとお願いした。とは言っても全員2日間というのは難しく、6班をのべ8名でお世話することになった。資料印刷準備を勘案し、辛くもNO₂捕集管取り外し日、数時間前に集まれる者だけで打合せを済ませた。

7日初日、県職員も駆けつけ一部始終を撮影。子

どもたちは気にもかけずに車の排ガスを取り込んだ後、水道水に含ませpH測定までを1人ひとりが挑戦してくれた。また導入部で、大気の組成割合までそらんじている男児がいたのには我々も驚かされた。うっかりしてられない。

9日、授業開始までの待ち時間に、初日の感想文を見せてもらう。不思議なもので、飾らない思い思いの言葉が我々をまたやる気にさせてくれる。授業開始。今日は平塚市環境部職員2名と大森担当の参観となった。勉強している男児だけの知識に留めておく手はないと思い、中日に大気の組成一覧表を作



成し全員で共有してもらう。それを素材に、宿題にした水・土・大気の循環パズルの穴埋め。悪循環にも応用が利き、楽しく学んでもらえたよう。大気測定も誰一人付け忘れもなく、ほっとさせられた。初日の排ガス取り込みの匂いと酸性に傾いたというインパクトは、2日目のNO₂分析の際にも捕集管を嗅いでみ

るといふ動作になって現れた。欲をいえば、同時に出る温室効果ガスCO₂への学習展開が時間不足であまりできなかったこと。ただし環境度の高い地域だけに、ウメノキゴケ類の発生まで共有することができ、子どもたちへのすばらしいプレゼントになったと思う。(ちょっと私のひいき目かな)

5年1組と講師陣の皆様、楽しい経験をありがとうございました。

平成 17 年度「子ども環境体験教室」メニュー決まる

事務局（子ども環境体験教室担当） 安丸 元一

K・リーダー会の皆様

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りいたします。

さて、「子ども環境体験教室」は、県環境科学センターのご指導と、皆様のご協力によりK・リーダー会の年中行事として定着し4年目を迎えようとしています。

昨年末に全会員に17年度メニューを公募しましたところ、大気環境部会、エネルギー部会、G O 3の会から各々1点を、そしてケナフ部会から3点を応募いただきました。関係各位にはご多忙の折り有難うございました。県環境科学センターの生駒様から丁寧なお礼の言葉を頂きましたことを付け加えます。

公募時にお知らせしました通り県環境科学センターの選考とケナフ部会会長との相談の結果で以下の通り決まりましたので団体名、教室名、代表者名(敬称略)をお知らせします。

1. 大気環境部会
(ツバメ、朝顔で環境チェック) 猪股満智子
2. エネルギー部会
(節電タップを作ろう) 北村博子
3. G O 3の会
(ソーラークッカーを作ろう) 狩野光子
4. ケナフ部会
(写真立てを作ろう) 高尾行一
5. ケナフ部会
(ケナフを使った自分だけのハガキを作ろう) 荒谷輝正

教室内容は「メニュー応募用紙」に従いますが、諸般の事情で教室名、代表者等の変更も考慮し日程を含め4月初旬に最終的に決めたいと思います。その間に代表者の方々には何かとお世話になりますがよろしく願います。この教室が将来を担う子ども達に我々の環境に対する考え方を伝える道場として益々繁栄する事を祈ります。

地球温暖化防止対策ワークショップを終えて

厚木市立上依知小学校において

山田 あや子(厚木市)

神奈川県環境農政部環境計画課が募集した「地球温暖化防止対策ワークショップ事業」にK・リーダー会として応募し、昨年12月に厚木市立上依知小学校の4年1組と2組でこの事業を実施することが出来ました。

この事業を先生に提案した際に強く要望されたことは、「地球温暖化防止という大きな課題を、子どもたちが実際に感じ、未来に繋がるものであって欲しい」「時間を掛けても良いので、形だけのワークショップにして欲しくない」とのことでした。早速、計画を立て提案したのは、エネルギー 水と空気 ごみとリサイクル 自然の4つの視点から、地球温暖化を防止するにはどうしたら良いのかを考えてもらい、それを自分で出来ること・家族で出来ることなどを具体的にあげて学校や家庭で挑戦していく、という内容でした。また、それをもっと膨らませ、大きくなった時どんな社会にしたいのか想像してみることで、未来に繋がりを持つことも目指しました。

地球温暖化の導入には、昨年9月25日に放送さ

れた、NHK「週間子どもニュース」の中で、子どもに分かりやすく地球温暖化のことを取り上げていた「今年の夏は暑かった」というビデオを使うことにしました。

この計画に沿い3回にわたってK・リーダー8名が事業を展開しました。今回、特に力を入れたところは、体験学習と家族と共にとということでした。対象が小学4年生で比較的低年齢であることと、多くの子どもたちに、環境問題や地球温暖化のことに興味を持って考えてもらい、家族を巻き込んで実践して欲しいと思ったからでした。

体験学習は第1日目に行ない、工夫を凝らした4つのコーナーをグループで順番に回るという方法を取りました。「エネルギーコーナー」では、エネルギーを実感してもらうため、発電や燃料電池などの仕組みを知り、省エネの大切さを感じてもらう。「水と空気コーナー」では、学校の周りの川や池から水を汲んできて、透視度計やパックテストを使って汚染度を測定。「ごみとリサイクルコーナー」では、厚木市仕様の「ごみの分別ゲーム」と資源はリサイクル

すれば良いとの考え方を考えるため「3R」を知ってもらおう。また、紙芝居もしました。「自然コーナー」では、ネーチャーゲームを通して自然を守り育てていくことが温暖化防止に繋がることを感じてもらいました。盛り沢山な内容でしたが、子どもたちは大変楽しそうに各コーナーを回っていました。家族と共にという点では、ワークショップで話したことを家族で話し合い、また、事前にとっておいてもらった電気・ガス・水道などの領収書から、家庭のCO₂排出量を計算してもらいました。

今回の事業を終えた後、先生から「使わない照明を消す係が出来た、みんなが給食を残さないように前向きに頑張るようになった」との報告を受けました。

「私は、環境教育は人間の生きかたの教育でもあると思っています」との学校長の言葉が印象的でした。環境の問題は一人一人の意識を変えようという地道な労作業。これをきっかけに私自身、また新たな思いで取り組んで行こうと思います。

地球温暖化防止の集い“そら”分科会報告

未達成分野、辛抱強く取組もう

大気環境部会長 猪股 満智子

“そら”分科会の参加者は22名、その内K・リダ会からは半数の11名に参加いただきました。ちょうど話し合いには適当な人数です。当会がこの分科会の責任団体として、当日、近藤代表と2人で司会・進行役を務めることになりました。分科会テーマの活動事例報告と意見交換を通して「今後に向けたアクションプランの提案をしよう」というものです。

因みに、「新アジェンダ21の中期的行動計画」“そら”の目標は、

[目標7] 大気環境をさらに改善し、環境基準を達成します。

[目標8] きれいな空気と美しい星空を創ります。

具体的には、ディーゼル車についての浮遊粒子状物質(SPM)、二酸化窒素(NO₂)対策をはじめとする各種取り組みにより、大気汚染に関わる環境基準の100%達成を《10年以内に》目指します。また夜間の防犯や観光振興などに配慮しつつ、良好な照明環境を創り、光害から美しい星空を守ります。と、謳われています。

3団体の活動事例報告は夫々10分ずつ、

K・リーダー会 = 会発足の経緯と6部会の紹介の後、'00年から6、1月のNO₂簡易測定と並行して指標生物タンポポ・ツバメ・ジョロウグモ調査により自然環境の変化を捉え、データを地図情報化し、会のホームページに掲載している大気環境部会の活動事例報告とそれらを応用した環境教育の実践について。かながわアジェンダ推進センター = '04年地域協働モデル事業のアイドリング・ストップ・キャンペーン(略ISC)について小田原を中心とした県西部における活動の中間報告と、

今後横須賀、鎌倉方面に展開したいとの展望などについて。

秦野の自然と環境を守る会 = '94年以来、点とメッシュで計年4回のNO₂簡易測定を継続しているが、季節による濃度の高低の理由が分からない。また'95年から市内2地点で酸性雨調査を実施。それらの数値報告と、11年間におよぶオオタカの観察と保護活動の報告。

次は報告を受けて、質疑応答と意見交換。主な意見を要約すると

A 海水(藻)のCO₂吸収量は緑の60倍。“そら”と海の関係、海に循環させる手立てと微生物科学の視点を取り入れることが不可欠になるのではないかと。また、飛行機・船舶の排ガス負荷は現在ノーマーク。吸収対策がどうなっているか問題視する必要。

B そういった意味からも“そら”と自然へのつながり、海・山・森林・生物へと関連づけた認識、教育は重要。猛禽類の観察も「隠して保護する」から「公開して保護する」という形で、また地球温暖化防止のための緑地保全・復元に結びつく活動と捉えてやっている。

C 体験的な機会を大切に環境教育とともに、川や水は見えやすいが、「人間社会は“そら”に棄てている、汚している」という罪悪感が無い。「空気も命ある間の借り物」といった視点を付け加えることも重要。

D アイドリング・ストップ・キャンペーンちらしが散乱ごみになっている。タクシー協会との対話や運転手との協働、客へのやさしいコミュニケーションを大切に運動展開を望む。また、小田

原市域はガソリン車、横浜ナンバータクシーはガス(CNG)車が大半。経済との整合の点から「ストップで燃料コストダウン」。そこでプラスが生み出されたことに気づくと経済の循環にも役立つのでは。

- E ぜんそく児童調査と NO₂ 簡易測定から因果関係を研究してみたが、どうも関連しないようである。
- F 秦野の会の NO₂ 濃度もこの程度なら変化、悪化もしていない。調査の積み重ねがあるからこのようなことも言える。
- G NO₂=ぜんそく、という捉え方には誤解がある。(資料を提示し)川崎自動車裁判で国立環境研から県立保健大に転じた嵯峨井教授が証言している。現在、ディーゼル排ガスなどから出る微小粒子(PM_{2.5} 以下)や揮発性有機化合物(VOC)類による大気汚染と健康影響が懸念、注目されているが、市民レベルでできる調査としては NO₂ 簡易測定しかないため、測定値を排ガス量の目安、参考にしているのだという認識をしてほしい。それと PRTR(環境汚染物質排出・移動登録)制度の活用、把握もする必要。(補足)身近な例として、閉め切った室内でタバコを吸うと NO₂ 濃度基準の約 6 倍、石油ストーブやカセットコンロの燃焼では数 10 倍にも。
- H NO₂ 測定は大気汚染にばかり関心が向くが、CO₂ 排出こそ温暖化防止の導入には不可欠のもの。県民 1 人当たり 8t/年(90 年)の CO₂ を排出しているという。これを分かりやすい CO₂ 量の指標・ものさしで示し、説得したらどうか。また応分の負担をする環境税(炭素税)のしくみ導入が必要。

部会活動

エネルギー部会

部会長 北村 博子

活動報告(12月~1月)

1. 例会: 12月11日(日) 14:00~16:00

下条、吉川、大森、依田、小田、安藤、吉田、北村

1) 地域活動紹介: 小田さんの地域での活動。

- ・県央会: 環境家計簿・アイドリングストップ
- ・相模原市施設駐車場アイドリングストップの表示実態調査

盛り上がってきたところで時間となり、今後に向けたアクションプランを 3 つ挙げることになりました。

環境教育には科学的視点、体験・体感重視、自然との関わり、道徳的視点を考慮することが重要。

“そら”との関わりには、海・山・森林・車等に関連づけた認識とアプローチが必要。また基礎データとして各自の地道な調査は重要、継続しよう。ISC 活動の県域への拡大、全国一斉 1 分間アイドリング・ストップ運動の展開を。地域によってはカーフリーデーに参加しよう。

各グループの活動目的に合った市民に分かりやすい CO₂ 換算の指標を示そう。

が採択され、全体会で発表しました。

役を終えて、

フリートークにしたことで、事例発表の 3 団体、そして参加くださった方々の地道な活動からの発言であることが伝わってきました。単独での活動は熱心なあまり、独りよがりになりがちです。こういった機会を重ね意見交流したり、できるだけ多方面からの情報を得ることからの確な判断となり、次へのステップアップに繋げていければよいと思います。そういった意味からも、また新たな広がり継続参加の協力が望まれます。部会としては、予定していた実物投影機が使えず地図パネルで我慢という事態になりましたが、大気部会員の機転の利いた発言に意見交流が盛り上がり、心から感謝いたします。

・相模原公民館: 環境関連活動

・相模原市自然環境観察員制度活動

2) 部員スキルアップ: 安藤さん

「環境税」: 足立次郎著「環境税」の内容を中心に、最近の新聞記事も含め環境税と環境保全・経済・雇用・税制、財政・ライフスタイルとの関連等を総合的に説明。

「環境税と排出権取引」: 下条さん

環境税の課題、排出権取引の内容について。

2. 例会: 1月16日(日) 13:00~15:00

児玉、大森、安藤、吉田、矢尾、井上、北村

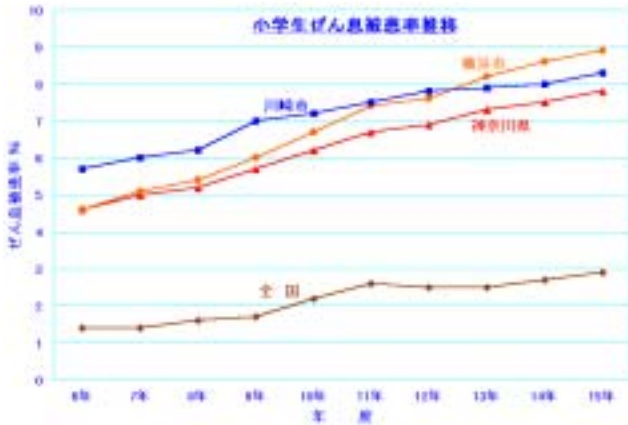
1) リーダー会事業について

2月19日: 市民環境活動報告会

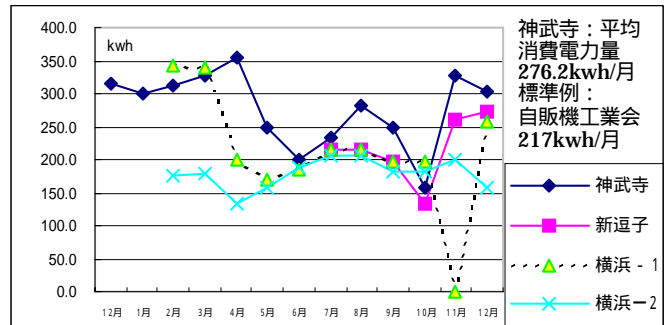
- ・パネルセッション
 - ・省エネ冊子配布
- 環境展担当：12 期終了会員から

2) 地域活動

小学生喘息実態調査：児玉さん
被患率と環境について



飲料用自販機消費電力実態調査：安藤さん
冬場の消費電力は、Hot がある為夏場より多い。



次回：2月13日相模原公民館、3月13日：702

ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

ケナフ部会員が携さわった12月～2005年1月までの活動及び2月～3月迄予定について報告します。

1. ケナフ部会定例会

- ・12/8 ケナフ部会定例会 ケナフの刈り取り。ケナフの刈り取り処理をする。
- ・1/23 ケナフ部会定例会 ケナフの刈り取り。



2. この期間活動報告(ケナフ栽培以外)

- ・11/17 横浜市港南区野庭で「ふるさとの福祉の集い」で子どもの体験コーナーとしてケナフ紙漉きを実施65名が体験する。
- ・1/12 横浜市立(栄区)千秀小学校渡辺先生から紙漉きをしたいので指導して欲しいとの依頼あり、

小川さんが訪問打合せする。渡辺先生は昨年実施した、リーダー会主催の「親子で楽しむ環境展」で紙漉き体験をされた方で、その縁で打合せに行きました。その結果2/3の13:35～15:00まで、4年生35名に紙漉き体験を実施することになりました。小川正敏さん

3. 今後の予定

- ・2/3 横浜市立(栄)千秀小学校 13:35～15:00 迄紙漉き実施。
- ・2/13 ケナフ部会定例会
- ・2/19 市民環境報告会にケナフ部会の活動「いま、なぜケナフ」をパネル展示

4. その他

次年度の環境科学センター主催の子供環境体験講座にケナフ部会として応募済み(H16年12月)

自然環境部会

部会長 岩田 寿郎

昨年10月の環境実践者養成講座修了者の12期の新会員の方々の中から5名に上の加入希望が寄せられました。早速その方々と今後の進め方を話し合う

廃棄物・リサイクル部会

部会担当 黒澤 宏

当部会も昨年部会長が体調不良のため休部されて後、部会活動が10月の部会を最後に途絶えております。しかしながらリーダー会としても廃棄物・リサイクル関係の問題は、環境活動の大きな柱となる活動と捉えており、部会をその中心にしていかなければと考えております。

現在のこの危機をどう乗り越えていくかを含め、今まで会の活動に参加して頂いた皆様と、今まで以上に活発に意見を交換し、又情報交換の場として盛り上げていきたいと思い、今年最初の部会定例会を

計画を立てましたが、皆さんとスケジュールの調整が取れず、第1回目は開けませんでした。次回は再度調整をして話し合う予定であります。新会員だけでなく他の皆さんにもMLにてお知らせ致しますので積極的な参加を期待いたします。宜しくお願い致します。

開催致します。どうか、部会員以外でも廃棄物・リサイクル関連の問題に興味をもたれる方も是非ご参加頂きたいと思います。

日時：2月24日(木) 13:00~16:00

場所：えびな市民活動サポートセンター第4会議室
(046-235-6835)

課題： 各部会員の地域における活動について
今後の部会活動の進め方について
「親子で楽しむ環境展」への参加について
その他

大気環境部会

部会長 猪股 満智子

NO₂有効測定数 318 地点に増えました

活動報告

11月22日(月)部会および12月度大気測定捕集管準備 KERC 実験室 13名参加

・部会「なぜ他の測定方式データを採用できないか」平成10~13年の「県民環境モニタリング手法検討委員会」で一般大気局と3種類の方式、即ち4種の測定方式による比較実験を行った。その時は検討委員自身が測定し、顕著な大差は認められなかった。そこで既に広く普及している方式の測定日に合わせ実施することで、たくさんのデータを提供してもらえと考えていた。12年、部会を発足し最初の12月測定前に、念のため1箇所に2種類の方式の捕集管を3~4本取り付け比較実験を試みた。2日目分析時は天谷博士にも立ち会っていただいた。

第1世代及び第6世代測定方式の比較結果は

日光、オゾンの影響、干渉：硝酸化現象の有無

風の影響：本来の目的はガスの分子拡散の原理を利用したNO_x測定。粒子の大きい浮遊粒子状物質(SPM)を目視できるが、PM測定方

法ではない

分析方法：エコアナライザーの明瞭性に対し、ユニメータと換算表による不確実性。検量線を毎回導く必要のもの

測定値：ppb単位下1桁のバラつきはいずれの方式でも多少ありうる。ただし2桁のバラつきと1本ごとの大差は度外視できない

ということが分かり、さしあたりデータ採用を第6世代測定方式のみとした。

他の測定方式で実施されている方、同日に2種類を付けて試してみませんか！

・捕集管準備(ろ紙充填)配布本数 324本
12月度NO₂一斉測定 2日(木)夕~3日(金)夕の24時間実施

12月7日、9日 平塚市立みずほ小学校へ「県グリーン教育支援制度(仮称)」試行における講師派遣 猪股満智子、柳川三郎、安丸元一、村上述、安藤紘史、鎌田英光、天谷芳夫、佐伯秀夫の8名

12月11日(土)NO₂分析 KERC 実験室
有効測定本数 318本達成

12月19日(日)13~17時 横浜市技能文化会館
「地球温暖化防止のつどい」に責任団体となる
主催：NPO(法)アジェンダ推進センター、県及び

神奈川地球環境保全推進会議
主要 5 テーマ中「そら」で当部会が活動事例発表
と分科会まとめ役とその報告を担う

活動予定

1月29日(土) 10~12時 NPOセンター大船
1月部会
12月度NO₂測定評価・検討
新地図入力ソフト活用の検討など

2月6日(日) 県自治総合研修センターで「グリーン
教育支援制度報告会」
2月19日(日) 県民センターホール「市民活動報告
会」ポスターセッションで展示発表
3月12日(土) 13:30~16:30 NPOセンター大船
3月部会
16年度活動総括と17年度方針検討 予定

水環境部会

事業担当 古谷 敏夫

活動予定(2月~4月)

1. 2月19日(土)
第11回市民環境活動報告会・会場の「ポスターセ
ッション」へ参加
テーマ(酒匂川水系外来種生息状況)
開催日の前日に外来種採取を予定しており、採取
できた場合は生体種の展示を計画している。

2. 2月27日(日)

17年度第1回部会会議

17年度水環境部会事業計画の決定

議案内容

- (1) 活動の目標
- (2) 調査指標生物(10種)
- (3) 探水調査日程表
- (4) 夜間採取調査の実施(新規事業)

(5) 底生生物の分類・分析と水質調査手法講
座(企画事業)

3. 3月6日(日)

第2回意見交換会への参加

4. 3月20日(日)

地域活動サポート部主催・地域交流会への参加
報告テーマと発表者

- (1) 水の科学・・・(齋藤)
- (2) 山と語り合う・・・(古谷)
- (3) 川の話・・・(柳川)

5. 4月中旬

第1回・探水調査(酒匂川、右岸A支流)

水環境部会は、今年で発足2年目、会員も横浜地
区5名・県央地区3名・湘南地区4名・西湘地区4
名の16名となりました。本年も「夢ある力」を持
って、安全で充実した活動を実践してまいりますの
で、リーダー会会員の皆様にも、ご支援の程よろし
くお願いいたします。

地域活動サポート部

部長 香川 興勝

環境市民活動に対する助成金についての情報

先般の地域活動サポートによるアンケートで、
我々環境市民活動の団体およびグループが活動
して行く上での問題点として、

- 新人会員が集まらないこと
- 活動資金が不足であること

が明確になった。

そこで、地域活動サポート部では、環境市民活
動グループに対する助成金情報の調査を行った。
その結果、次の三つの助成金情報機関があること
が明らかになったのでお知らせします。

1) (財)助成財団センター

(JFC: Japan Foundation Center)

<http://www.jfc.or.jp/top.html>

<http://www.npweb.jp/> で検索する。

民間助成金ガイド、助成財団センター出版物
(例、助成財団 NPO・市民活動のための助
成金応募ガイド)、日本の助成財団の現状他

2) 地球環境パートナーシッププラザ(GEIC :
Global Environment Information Center)
GEIC または地球環境パートナーシッププ
ラザで検索

例、平成17年度「地球環境基金、平成17年
度藤本基金助成先の募集(第1回)、セブ
ン・イレブンみどりの基金2005年度「環
境市民ボランティア活動助成制度」他

3) かながわ環境インフォメーション(KEI-net)

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kankyokeikaku/kei/>

アジェンダ21 かながわ環境情報相談コー
ナーの助成金情報

例、生活協同組合神奈川ゆめコープ市民活動
支援「わくわく創造パートナーズ」

ペットボトル to ペットボトルの再生企業 (株)ペトリバースを訪ねて

広報部 木本 光昶

横浜市金沢区の「生涯学習講座 カナリア」生涯学習の一環として昨年の11月17日に、(株)ペトリバースの工場見学会が開催されました。

この見学会には金沢区の市民を中心に、K・リーダー会の児玉勇氏と私を含めて32名が参加しました。参加者は京急川崎駅に集合した後、バスで川崎市川崎区の(株)ペトリバースの工場を訪問しました。

工場では会議室に案内され、企画担当部長、社長付本田聖二氏から次のような会社説明がありました。

[会社および事業概要]

(株)ペトリバースは2001年8月に設立され、主としてポリエステル製の循環リサイクル技術「アイエス法」によって、廃ペットボトルを原料にしてペットボトル用樹脂を製造している。

- ・資本金 13億円
- ・社員数 70名
- ・住所 川崎市川崎区扇町12-2
- ・設備投資額 100億円(再生プラント一式)
- ・事業規模

使用済みペットボトル処理量 27,500トン/年

[事業化の背景]

ペットボトルの日本での使用は1997年の醤油用としての使用が最初です。1982年に「食品衛生法」の改正により清涼飲料への使用が認められ、需要が一挙に拡大しました。ペットボトル用樹脂の需要は1997年の25万トンから2003年の47万トンへと大きな伸びを示しています。

こうした状況に対処して容器包装リサイクル法が制定されました。その施行に伴い地方自治体を中心とした分別回収が行われ、回収量も年々増加しています。

[ペットボトルリサイクルの現状]

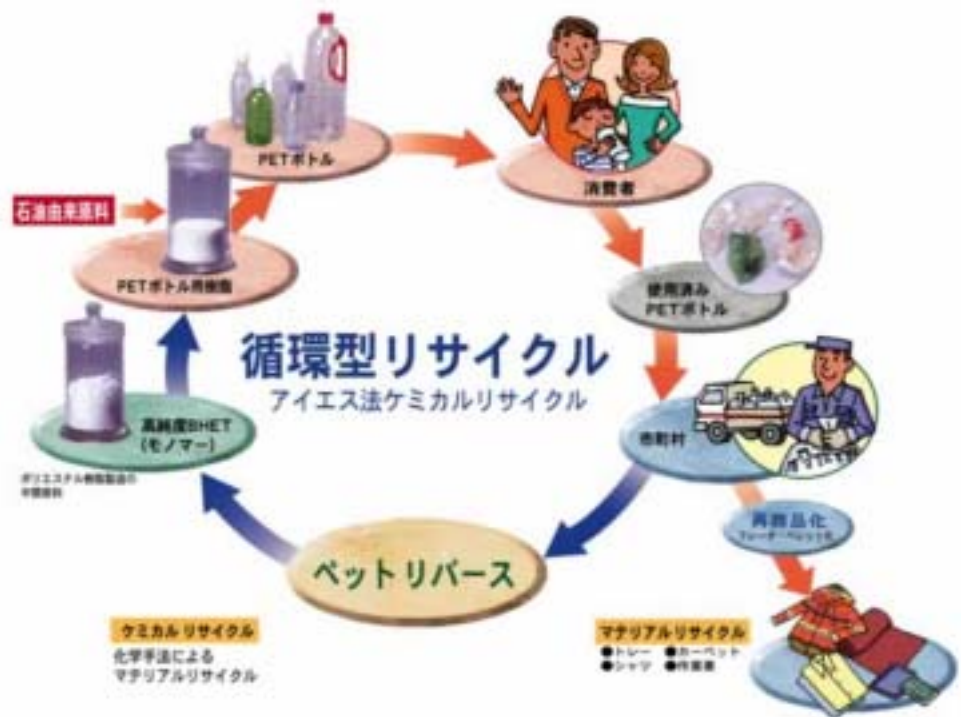
ペットボトルは世界で年間800万トンが使用され、そのうちリサイクルされるものが、2003年度で欧米で約25%、日本では61%(筆者注:市町村回収および事業系回収を意味すると思われる)に達しています。未回収の多くが焼却や埋立処分されています。

ペットボトルの再生は、洗浄し、砕いて溶かす「マテリアルリサイクル」と呼ばれる方法が主流です。この方法だと異物が混入し、品質の良いペットボトル原料に戻すのは困難です。

これに対し「ケミカルリサイクル」はペットボトルを化学分解して品質の高い原料に戻し、再びペットボトル用樹脂に戻す方法です。

再生ペットボトル用樹脂の食品への使用が一番最初に認められたのは帝人(株)で2004年3月に内閣府食品安全委員会で承認されました。

また、同年9月に(株)ペトリバースも承認されました。



(株)ペトリバースのホームページより抜粋

[アイエス法の特徴]

1. シンプルな工程
2. エネルギー消費量が少なく環境対応型システム
3. 着色ボトル、ラベル、キャップなどの混在でもリサイクル可能
4. 再生効率が高い(年間 2.8 万トンの使用済みペットボトルから 2.2 万トンを再生)



会議室での質疑応答(写真: 児玉氏撮影)

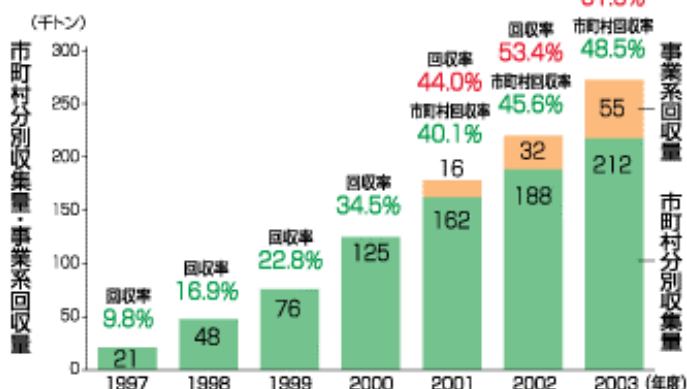
会議室での説明が終わった後、社屋の屋上から再生プラントの見学をしました。100 億円を投資して設置されたプラントだけあって、再生プラントとは思えない立派な設備でした。

参加者からは再生のプロセス、処理能力、採算性などについて熱心な質問や意見交換が行われ、皆さんそれぞれ満足した様子で見学会は終了しました。

[参考資料]

参考までに、PET ボトルリサイクル推進協議会の資料を添付します。

図2 ● PETボトルのリサイクル概況



会員の広場

「異常気象と温暖化 その関係は？」 環境省一般公開シンポジウムに参加して

平成 16 年 11 月 30 日 有楽町朝日ホール

石丸 博司(伊勢原市)



1. はじめに

会場には早めに着いて前の方に席を確保、ロビーでコーヒーを飲んでいたら K・リーダー会の原園さん他数名に会い歓談、席に戻ってびっくり、会場は空席がなく満杯でした。

参考までに昨年のテーマは「しのびよる温暖化」(健康・食・社会・生態系への影響最新知見)でした。コンピューターシミュレーションモデルをベースにして幅広く温暖化が、気象を含め身近な日常生活にどのような影響が発生するのかの予想。どんな現象が現れ始めているか、将来の人類の生存基盤を脅かしかねない問題としての発表とパネル討議なされていた。しかしシミュレーションでの可能性の域を出ないと言った印象で歯切れがもう一つといった印象でした。

しかし今回、「異常気象と温暖化 その関係

は？」各研究者からの発表、またパネル討論でも「？」からかなりの確信と自信のある歯切れのいいシンポジウムの印象が強かった。

2. 主なプログラムと講演・発表者

1. コンピューターシミュレーションが予測する将来の気候 江守正多(国立環境研究所)
2. 地球規模の異常気象と地球温暖化 木本昌秀(東京大学気象システム研究センター)
3. 日本の豪雨水害や早魃渇水はどうか? 沖 大幹(東京大学 生産技術研究所)
4. 温暖化のもたらす深刻な影響 対応策は? 原沢英夫(国立環境研究所)

またパネラーには上記 4 氏に加えて飯島 希(気象予報士)高橋泰夫(環境省地球環境局研究調査室長など夫々の立場から確度の高い発表と主張が行われた。

3. 第1講演者の国立環境研究所の江守氏から、「予測は信用出来るか」と言った挑戦的な観点からの問題提起。様々なモデルによる検証結果の説明（私には説明不可のため省略）があり地球温暖化の進展と異常気象・気象予報の観点から確実に進展していると発表。

大変インパクトのあったスライドは「どの様な予測には自信があるか」(その必要条件)として、

注目する変化が自然変動に比べて十分大きく、明瞭である。

物理的・合理的に説明可能である。

全ての(多くの?)モデルで結果が一致する。

注目する現象を現在の気候についてモデルがよく再現できる。

などの条件設定が行われ、以下各氏からの講演にも同様の基調を踏まえた発表が伺えた。

- ・また「なぜ100年後の話をするのか?」では、気候の自然変動と温暖化を区別するため、温暖化が進行した状態を調べる方が調べやすい。100年後の気候を決めるのは100年後の人たちではなく、我々を含めたそれまで生きてきた人たちだから。
- ・「異常気象」とは...その地点、季節として出現度数が小さく平均的には現れない現象または状態。統計的には30年に1回以下の出現率の現象。(気象庁)

4. 講演者個別の発表は紙面の関係で割愛させていただきますが「異常気象」と「温暖化」といった点で顕著な発表を(私の個人的判断で)列挙して見ます。

・欧州の熱波は過去500年でみても最大規模の熱波であった。欧州では2003年6月から高温が続き、8月に入って異常高温となる。ロンドンで8月10日に37.9、パリでは12日に40.0を記録した。(平年よりそれぞれ約17、16高かった。)

・フランスでは、熱波が原因で14,800人が亡くなった。(世界保健機関による推計)

・日本では福井・新潟を襲った洪水、さらに上陸した10の台風による被害は想像以上に多く、死傷者、家屋・施設の破壊、交通麻痺をもたらした。また2004年真夏日日数記録更新。

列挙してみると、熊本市(105日)、京都市(94日)、大阪市(93日)、岐阜市(91日)、人吉市(88日)、豊岡市(82日)、熊谷市(77日)、三島市(75日)、大手町(70日)、千葉市(68)、横浜市(64日)、つくば市(60日)と大変多い。

下記図1は今年の(年が明けましたが)猛暑、集中豪雨、台風のもたらした概要をまとめたものです。市民生活や活動のほぼ全ての分野に影響を及ぼしています。

・最近では当シンポジウム以降1月カルフォルニアで集中豪雨・異常気象のニュース。またNHK・衛星放送第1・BS7「地球温暖化」3回シリーズ(1月10日~12日)「予測を超える気象災害」などこれから異常気象が常態になるのではないかと思わざるを得ません。

紙面の関係で温暖化がもたらす異常気象への対応策について割愛しますが、従来から取り組んでいる諸施策の更なる強化が必要になってくるのは必至であります。

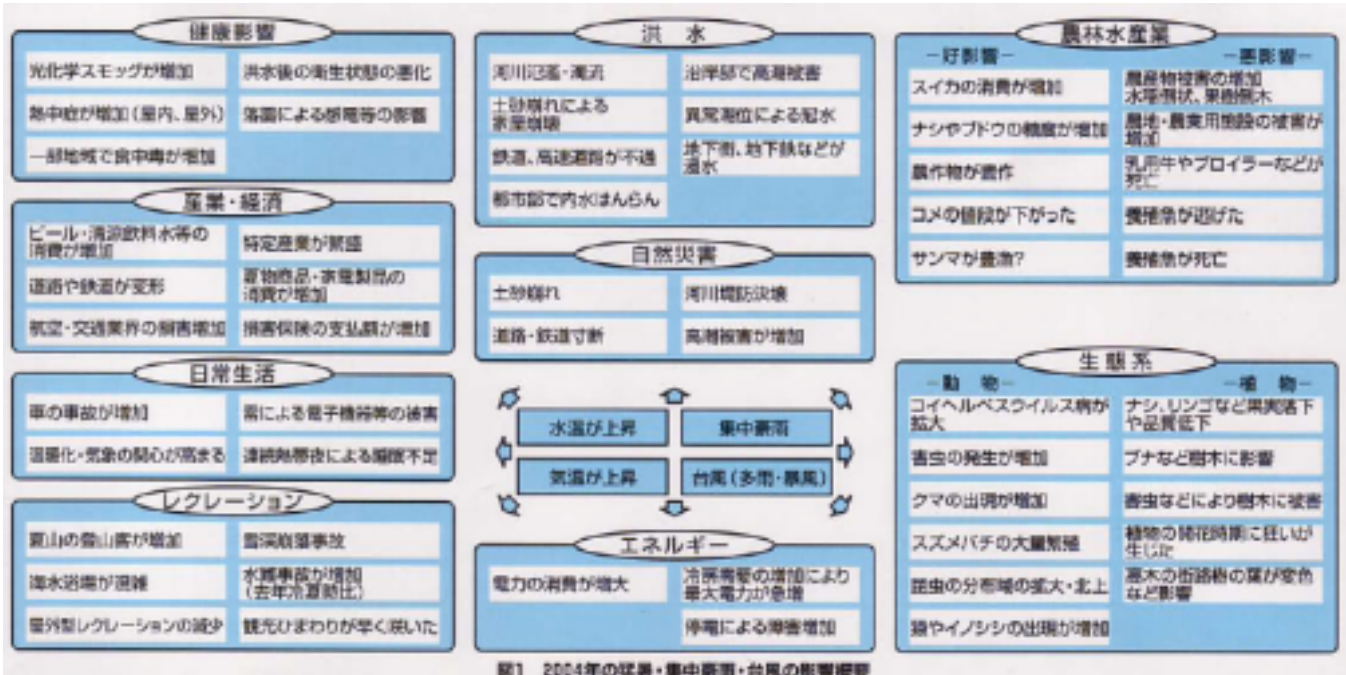


図1 2004年の猛暑・集中豪雨・台風の影響概要

出典：当日配布資料9ページ、国立環境研究所原沢英二氏「温暖化がもたらす深刻な影響 対応策は?」

『みんなの環境展』2005

会員の広場

～美しいふるさとをこどもたちへ～を終えて

GO3の会 狩野 光子

次世代に美しい自然環境を残していこうと昨年2月頃から厚木市内で活動している市民に呼びかけ11名で「あつぎ環境市民の会」をつくりました。

定例会では身近な自然環境やごみ問題をテーマに勉強会をすすめ、会の目的、活動内容を議論し会員相互の熱意を確認してきました。会則もまとまったところで、まずは自分たちの活動を市民に知っていただくことと、市民みんなで環境について考えて、関心を高めてもらおうと「みんなの環境展」を企画しました。

この環境展はどこの支援も受けず、また出展される市民団体にも一切の負担を求めず、会員手作りのボランティア活動としておこないましたが、会員の所属する専門分野の団体にも快く参加して頂きました。

【GO3の会】は平成11年以来、神奈川県下の分別カレンダーと神奈川県清掃事業の実態のデータを元に調査、分析、考察などの活動を続けてまいりました。その結果を【環】と言う情報紙にまとめ発行し、広く広めてきました。今回、厚木市市民ギャラリーで行われた『みんなの環境展』に参加することによって、今までの活動実態を総括的に展示発表することが出来ました。5年という節目で展示発表が出来た事は会員の努力と、多くの方々のご協力を頂いて出来たことだどつくづく感じました。



みんなの環境展の展示内容と環境展での様子
生ごみのコーナー：11.5メートルの壁を利用し好気性微生物の環境紙芝居や、家庭で出来る生ごみの処理方法、リサイクル事業の実践データ、農家の方々との交流など地域循環型社会を目指して市民活動の実践と夢を表現しました。

ソーラークッカーのコーナー：日本でも最大級のもの仲間を持って来て頂き、厚木のこどもたちに見せて上げたいと展示しました。子供より大人の方が関心を示して下さり地球規模での温暖化防止の必要性や自然エネルギーへの転換

など情報交流が出来た気がします。

神奈川県内のゴミ状況：【GO3の会】のデータを食い入るように見ている方が時々おられました。お聞きすると政治家や業務に携わる方でした。核となる方に市民の気持ちをお伝えすることが出来ることは効果的な機会と感じました。
子ども環境学習コーナー：立ち止まって微笑む方が多く見受けられました。何度みても、なごむ空間でした。

地球は今のコーナー：環境省などから地球の温暖化の危機が分かりやすいものをお借りして展示しました。

私たちには見慣れた映像ですが、はじめての方はびっくりされていました。

厚木市内の環境協力企業：3社にお願いしました。

これからもっと多くの企業のご参加をお願いしたいところです。

厚木の自然：厚木植物会が厚木の絶滅危惧種やオオタカの写真など23点の写真を展示してくれ環境展の雰囲気をはっきりと支えてくれました。山椿の生け花も添えて頂きました。

紹介コーナー：10団体が参加してくれました。色々な分野で活動しておられるのが分かりました。

環境展には、遠くから多くの仲間が駆けつけて下さいまして勇気づけられました。また新聞社2社が記事に取り上げてくれたり、ギャラリーという特性から何気なく会場に入ってこられる方も半数程おり8日間で延べ652名の来場者数となりました。

アンケートには148名の方のご協力がありました。その中で会場に来た価値があったと答えて下さった方が76.7%あり、継続する意義も感じました。

K・リーダー会の仲間もお忙しいなか、遠くから駆けつけて頂き心より感謝申し上げます。また後援を快く速やかに承認して下さいました環境科学センターの野崎さんに、この場をおかりしまして、お礼を述べさせて頂きたいと思います。



神奈川県環境学習リーダー会に入会して ～ 新入会員のメッセージ ～

「神奈川県環境学習リーダー会に入会して」と題して、新入会員（12期）の方から多数の寄稿をいただきました。以下に掲載いたします。

神奈川県環境学習リーダー会に入会して
新入会員 川邊 敏雄（秦野市）

神奈川に生まれ育った神奈川県人として、神奈川の環境にお役に立てる方法はないかと、さがしている時に、友人から神奈川県が主催している研修会が いいのではとのヒントを貰い、「環境実践者養成講座」に出会い、受講することにしました。

受講してびっくりしました。一つには、神奈川全域から集まってこられたこと、もう一つは、大学生から60歳過ぎの方々と、年齢の幅の広さに驚きました。あらためて環境に関心を持っている層の広がりには驚きを覚えました。やはり最近の自然環境の変化を感じている人が多いということではと思っております。

5日間の講義・実習を通じて、講師の方々の熱心な講義及び環境科学センターの方々のお世話になり、感謝申し上げます。ここで学んだことは、今後の活動に必ず生かせるものと考えております。

神奈川県環境学習リーダー会に入会して
新入会員 吉田 榮一（横浜市）

神奈川県地球温暖化防止活動推進員の横浜地区会議に何回か参加しているうちに、神奈川県環境学習リーダー会で活躍しておられる児玉様、八木下様からのご紹介で、今回環境学習リーダー養成講座を受講しました。

受講者はアフター60の方が多くのように思いましたが、学生や若い主婦の方もおられ、環境活動に熱心な方の多いこと、その幅の広いことに感激しました。幸い5日間の全講義に出席でき、大変多くのことを学ぶことができました。この講義・実習のすべての講師の方が大変熱意を持ってご指導して下さい、また質問にも熱心に答えて下さって、さらにその後調査までしてご教授して下さいなど本当にありがたいことだと思いました。さらに環境科学センターの方々も何かとサポートして下さいました。これら関係された方々すべてに厚くお礼申し上げます。

ところで、K・リーダー会への参加は、先輩会員の方々の熱心な勧誘の賜物です。どこの部にするか迷いましたが、「広報部」にさせて頂くことにしました。それは、最近さらには「環境実践者養成講座」を受講して多くの方々が、種々の活動を自主的にされていることを知り、それらの活動の時には橋渡しが出来るチャンスがあるのではと思ったからです。K・リーダー会の諸先輩、同期会K12会の皆様のご指導を頂きながら、自分の出来ることは何かを探し、お手伝いしていきたいと思っております。

最後になりますが、小さな畑での野菜作りから、やはり人間は自然に生かされていると気づかされる昨今です。



今回の講座を通して、また横浜市港南区の「ごみと水」を中心とした環境問題の市民学級を立ち上げた関係もあり「みどり・水・土」問題に関して大変興味がありました。やはり今まで最もかわりが深かった分野のエネルギー部会への入部を希望しました。エネルギー部会への参加はまだ1回ですが、北村部会長はじめ皆様は大変に造詣が深く、いろいろと熱心に活動されていることに感動しました。特に1年先輩の11期の方々もすでに広く活動されており、すごい刺激を受けました。

今回の講義で得たことを活かし、さらに環境学習リーダー会の皆様、エネルギー部会の皆様、K-12会の皆様にご指導を仰ぎながら、環境学習活動・環境保全活動を進めて行きたいと思っております。そして慌てず・焦らず・諦めずと気力で先輩方に迫り、追いつけの気持ちです。



神奈川県環境学習リーダー会に入会して
新入会員 上田 恵一（横浜市）

要点を以下に述べます。□内が要点です。

何故入会したか。

70代の1年は若い時の3倍位貴重です。来年卒業まで待てない。

何をして欲しいか。

横浜定住『探』の1年半、気付いた事：

『日本は法律や立法基準は可なり整備され、遵守さえすれば、一部を除き懸念することは無い筈だ』。問題は『悪知恵を出し《法の目的》に反しても条項に具体的に反しなければ良いとか、社会的公正性を欠く行為や法令違反行為があらゆる領域で行われている』ことでした。

昔、公害、環境問題。今は法令違反行為事例の多さが社会問題だと気付きました。

*全国組織のウォッチャーが必要です。法律や技術（の裏道も）を知る男性軍と生活現場や地域を知る女性軍の協力によ

り、環境や生活情報の翻訳、啓蒙、収集、法令違反情報公開活動を地道に重ね『全国組織のウォッチャー』を作る礎とする。『環境学習リーダー会』は縦横の繋がりが有り network の素材コアと成る資質を備えていると思います。

何を討議して欲しいか。

- 法律や技術（の裏道も）を知る男性軍と生活現場や地域を知る女性軍の協力が実際に可能か。
- 法令違反情報公開活動が市民に素直に受け入れられるか。
又実務的にプロのシンクタンクで初めて実行可能な組織・機関かもしれない。



神奈川県環境学習リーダー会に入会して
新入会員 井上 勝義（横浜市）

<講習会のこと>

昨年秋に「神奈川県環境実践者養成講座」を受講する機会を得て幸いに思います。

この講習で環境のことについての全般と神奈川県がかかえている問題点を知る事が出来ました。熟知するにはさらなる勉強が必要かなと感じました。受講して良かったことは、環境という共通のテーマについて集まった多くの人と知りえたことです。特に学生や若い女性が多く参加していたのに驚き、グループでの発言も確りして次世代を担う人を頼もしく感じました。

<私の活動実績>

養成講座を受講するまでは、地域での活動は3年前に定年退職後自由時間があるので、町内会の役員を1年しました。地域の方は活動に無関心の人が多く活動するのに落胆し1年で辞めました。昨年は「横浜カーフリーデー」の活動を少ししました。

<学習リーダー会に入会して>

リーダー会の活動に関心があるのは「大気」と「エネルギー」関係です。養成講座受講後に「大気部会」に入会しましたが、活動の内容を詳しく知らずに入会したのが正直なところです。私のつたない知識と経験が活動に役立つのか不安です。活動に際しては活動の趣旨を理解し、そのことに強い思いが無ければ長続きしないと感じています。まずは今年1年「大気部会」で活動の勉強をしたいと思います。

その他、昨年参加した「横浜カーフリーデー」の活動は、今年は横浜市を巻き込んで大きなイベントになりそうなので参加したいのと、「神奈川区環境を考える会」にも参加したいのと、「エネルギー部会」の活動も勉強したいと考えています。その中から自分に適したものを見つけたいと思っています。今年は私の活動することの方針を決める大切な年です。皆様宜しく願い申し上げます。



神奈川県環境学習リーダー会に入会して
新入会員 矢尾 欣治(横浜市)

災い多き 2004 年が終わり、今年は異常気象のない平穏な一年でありたいと願っていると思います。地球温暖化、環境破壊などが、最近の異常気象の主な原因になっていると判断されますが、21 世紀に生きていく生物・人類の為に、この豊かで、美しい地球を是非守り続けていきたい。

地球は、直径が約 1.3 万 km の球体の周囲に、僅か約 500 km 程度の空気で覆われている生物が棲む、太陽系唯一の惑星です。人類は、生活の便利さ、豊かさ、快適さだけを一方的に追求して、今日の様な傷ついた地球を作ってしまった。自然が持つ回復力、修復力を上回るスピードで、人類は地球を破壊しています。破壊のスピードを緩め、地球を守る行動を更に活発にする必要があります。

地球上の生物・人類が、この豊かさを持続して行

くには、人類は、これまでの思考形態、生活内容を変えなければなりません。今後の進むべき道として、省エネ、代替エネルギーの開発、自然の回復、CO₂の固定化などが共通のテーマとして、認識されています。政府、行政機関、地方、企業、団体、個人など、行動する内容は異なりますが、出来る内容から一歩一歩進めるしかないでしょう。各々の利益、エゴイズムは、地球的観点から判断されるべきです。この判断基準、方法も早急に検討する必要があります。

今回、環境講座で学んだ内容を、今後の活動の参考にしながら、諸先輩のご指導、ご支援を受けて、自分の出来る事が、お役に立てればと思っています。



神奈川県環境学習リーダー会に入会して
新入会員 岩沢 直純(平塚市)

環境実践者養成講座を何とか無事に終了し、神奈川県環境学習リーダー会へも入会させて頂きましたが、12 期の仲間の多くの方が具体的な活動を既に活発にされている中でまだ実践的な活動は殆ど出来ておりません。今年は少し積極的に取り組もうと元旦には決心したのですが・・・。

化学会社に勤務していた関係で会社では廃棄物に関しては厳格な取り組みをして来ましたが、家に帰れば典型的な「くうたら」亭主で「ごみ」や「エネルギー」の問題は家内にお任せという生活をして来ました。「そんな人が環境学習リーダーだなんて 50 年は早いぜ！」との周囲の冷やかな目に一念発起？ まずは自分の生活の中で何か行動を起こしてみようと我家の「ごみとエネルギー使用量」の実態調査を始めました。

まだ始めて半年足らずなので結論は出せません

が、「生ゴミ」が 80 - 95 g/日・人、「最終処理ゴミ(含む生ゴミ)+リサイクル資源」が 400 - 600 g/日・人、電力消費が 10kwh 弱/日(3 大家族)が恥ずかしながら我家の実態であることが判ってきました。少しでも量を減らせないと電力では待機電力を極力使用しない、不要な照明はこまめに消すと云った当たり前の事をするだけで消費電力を約 1 割減らせる事を体験したり これは日本中の家庭で同じ事をすれば 100 万 kw クラスの最大級の原子力発電 2 基を減らすことが出来る とか生ゴミを減らすために臭いのしない堆肥化法を工夫する等の身近な事から実践経験を積んで行こうと思っています。

先輩諸氏にご指導をいただき、「お前が~?!」と言われぬような学習リーダーに早くになりたいと思います。宜しくお願い申し上げます。



神奈川県環境学習リーダー会に入会して
新入会員 村井 純子(伊勢原市)

学校教育の中で環境教育を根づかせる方法を考えていましたが、学力低下が叫ばれ諸問題が錯綜している教育現場では、難しいということがわかりました。環境教育は、ドイツのように NPO がプログラムを作り、学校がそれを利用していく形の方がベストです。

私は、今まで自分で学校現場で学んだ環境教育の理論とボランティアの自然観察指導で勉強した経験を活かして、環境学習のプログラムを作りたいと思っています。そのために、今まで集めた資料を整理したり、いろいろな研修に参加したりする他、具体的な方法として

今までも自然保全センターのフィールドスタッフクラブで、ミニ観察会や遠足観察会でリーダーやスタッフとして活動しています。

これからは、平日も活動できますので学校での環境学習にも参加して、腕をみがきたいと思っています。

時間的にも自由になるので身体が動くうちに、地元伊勢原をくまなく歩いて「どんな自然があるのか」からはじめていきたいと考えています。もし、近くの方で主旨に賛同して一緒に活動して

いただけるとうれしいのですが当面は一人でもやっていきたいと考えています。

2005年、楽しみながらポチポチやっていきたいと思



~~~~~  
神奈川県環境学習リーダー会に入会して  
新入会員 米山 有美(小田原市)

私が自然や環境に関心を持つようになったきっかけは、付近に建設された工業団地とマンションでした。今まで小田原に住みながら、地域の変化に関心を払わずに過ごしてしまい、付近の景観が激変して初めて周囲の環境の変化に気付いたのです。

「そういえば子供の頃は家の隣の溝に蛭がいたっけ。散歩しながらヨモギを摘んで、家の庭で天の川を教えてもらって・・・でも今はどうだろう。昔は当たり前のように思っていた多くのことが、今では不可能になっていました。

私は「自分が遊んだ川や、田んぼあぜ道の面白さ、不思議さを、公園の遊具で遊んでいる子供たちにも伝えてみたい。彼らにも、地域の自然環境のかけがえの無さを知らせたい」と思うようになりました。

といっても、何から始めて良いか全くわからない状況です。専門的な知識はありませんし、情報交換

~~~~~  
できるような仲間もいません。そんな折、環境実践者養成講座の事を知りました。講座では講師や参加者の皆様からたくさんの経験談を伺い、「環境問題」の多様な側面や難しさについて、知識を深めることができました。

何よりも嬉しかったのは、自然や環境について感心を持つ方々と繋がりを持てた事です。せっかく知り合いになれたのに、このまま終わらせてしまいたくないと思い、環境学習リーダー会に参加させて頂きました。

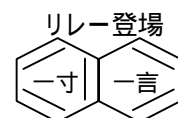
今は活動の時間を確保するのがなかなか難しい状況ですが、とにかく中断だけはしないよう、活動を継続して行きたいと思っています。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。



~~~~~  
会員の広場

## 容器リサイクルについて思うこと

~~~~~  
佐藤 洋徳(秦野市)



洗剤やシャンプーなどの容器の軽量化が進んでいる。薄手の容器にしたり、捨てる際に容器を小さく折り畳めるようにしたり、工夫をこらしている。施行された容器包装リサイクル法が機能していると感じる。消費者が積極的にこうした商品を選び、改良の注文をつけていけば他の商品にも軽量化の動きが広がると思う。

A社が販売している詰め替え用の台所用液体洗剤。樹脂製の袋の底が平らに広がって倒れないようにした容器をさらに改良、ストロー状の注ぎ口をつけた。容器が小さく詰め替えにくいという苦情が寄せられたためである。

詰め替え用の容器は、使用後に折り畳むと体積は本体容器のわずか5%、使う樹脂量も27%ですむ。こうしたごみ減量化の工夫をした製品は、各社とも詰め替え用が本体製品の販売量を上回るなど「消費者に着実に受け入れられている」と言う。同じ容量

の詰め替え製品の価格を本体の製品より安く設定し、価格的にも誘導を図っている商品も多いように思われる。

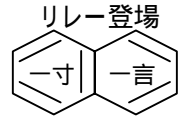
容器包装リサイクル法によってプラスチック系ゴミの中ではペットボトルの回収が始まったがまだ意識が低い人達が私の職場など周りには多い。容器の軽量化の試み、こうした動きについて、ごみ減量につながる商品を消費者が進んで選び、メーカーと知恵を出し合いながら、使いやすく、また処理のしやすい容器を作っていくことが大切であり理想である。

つぎは、横須賀市の野崎章子さん(7期)の登場です。ご期待下さい。



自己紹介 ~ 主権者運動について

山下 博子 (川崎市)



私が環境問題に関心を持つようになったのは 97 年、京都会議を前に地球温暖化がクローズアップされた頃、下の子が 8 歳になり仕事と子育て以外に目を向ける余裕が出始めたのだと思います。その時は環境講座で様々なテーマを聞きかじりました。エネルギー、廃棄物、都市交通、農業、化学物質、水問題、貧困や格差の問題などなど。そこで感じたことは、多くの問題で解決法がある程度分ってきているのに、その方向に進まないのはなぜだろうということでした。例えばエネルギー起源の CO₂ 排出を減らすには省エネ・エネルギー利用効率の向上・自然エネルギーへの転換を進めることです。でも全然進まない。その時は理由が分らなかったけれど、ともかく私はもっと注力すべき分野で働きたいと思って、会社勤めをやめ自然エネルギー推進の活動をする NGO で働くようになりました。そこは 3 年弱で終り、今は高齢者介護のヘルパーの仕事が 3 年目です (これにも気合充分の選択理由があるのですが残念ながら割愛)。

NGO 時代に出会った別の活動を続ける中で、日本が望ましい方向に進まなかった理由が分ったような気がします。それは、政治が変わらなければ世の中は大きくは変わらないということです。環境を破

壊する公共事業をやめて環境再生事業に税金を使うことを決めるのは政治です。全ての人に公平で将来に渡って持続可能な社会保障制度を作るのも政治の仕事です。早ければ 2006 年から人口が減少し始める時代です。高度成長期の惰性を断ち切り、一刻も早く新しい時代にふさわしい社会に大胆に変えていく必要があると思います。

皆さんはどの程度政治に関心を持っていらっしゃるでしょうか、また関わっていらっしゃるでしょうか。政権を選ぶのは私たち主権者です。望ましい政治家を育てるのは主権者の責任です。まずは地元の政治家 (国会議員でも地方議員でも) の会合に出かけ話を聞いてみてください。パブリックに対する責任感をどれだけ持って仕事をしているか分つてくるとと思います。ということで私のテーマは、福祉 (仕事)、政治、環境です。川崎で自然エネルギー普及の活動にも参加しています (ほそぼそとだけ。初心忘るべからず)。

次は、逗子市の 3 期の田口汎さんにご登場をお願い致しました。よろしくお願ひいたします。



ニュージーランド 5,000 キロの旅

田村 了一 (横浜市)

抜けるように澄んだ青空、白い砂浜、インド洋に面した西オーストラリア州パースは「世界で最も美しい都市」、「世界で最も住んでみたい都市」としていつもトップに上げられている。

そんなパースで長期滞在を始めて 5 年、春・大原野に一斉に咲くワイルドフラワー、花の絨毯。また実りの秋のえもいわれぬ美味な葡萄---など等を満喫し、言葉のハンディは多少あるものの大きな問題も無くリタイア後の生活をエンジョイしてきた。海外での生活体験をしてみようと始めたパース長期滞在と言う第一ステップを乗り越えると次の新たなチャレンジをと血が騒いだ。

日本より 20 数倍も広いオーストラリアを制覇するのは至難のこと。同じオセアニア圏のニュージーランドならば制覇できるかもしれない。そんなこと

を考えボツボツと計画を始めたら知り合いの二夫婦がその計画に乗りたいたいと言い出した。折角やるのならチョット刺激的な手作りの旅にしたいと話がまつまり、「宿の予約なし、レンタカーで気分に廻る」をコンセプトとした。

【春、北端は初夏だった！】

春、11 月のオークランドは肌寒かった。レンタカーを借りハンドルを握って武者震い。結果的に 5,000 キロの大旅行になったが、まずドライブルートのご紹介から。

北島の空の玄関、オークランドに着

ハミルトン

オークランド経由ベイオブアイランド・パイヒア

オークランド

タウポ

ネイピア

ウエリントン

ピクトン経由カイコーウラ

クライストチャーチ

テカポ・マウントクック

テアナウ
クインズタウン
ダニーデン
クライストチャーチ
アカロア。



オークランドはこの国最大の都市。起伏の多い都市で市街地の至る所から波静かな青い海と数多くの白い帆の姿が目に入る。さすがに「帆の都」と言われる所以である。この国の人は海・船が大好き、自家用自動車を持つと同じ感覚でヨットやモーターボートを個人で持っている。オークランドはこの国の文化と経済の中心だけあって大都市である。ホテル街・繁華街と埠頭はすぐ近く、街の散歩を終え、埠頭近くの店でヨットの流れを見ながらの一品が心地よい。この埠頭からは各方面にフェリーが出ている。20分ほどフェリーに乗り対岸のデュボンに渡り小高いヴィクトリア山に登ってみたが360度の大パノラマ、海・街・自然が織り成す景観が素晴らしかった。

ハミルトンはこの国最大の河川・ワイカト川の中流にある酪農製品の集散地。オークランドから130キロ、2時間のドライブである。8年前この地で長期滞在したので知人が何人かいる。今回は横浜の我が家に1週間ほどホームステイした夫婦の家でお世話になった。湧水の澄んだ水を満々と湛えるハミルトン湖、その湖畔にある家で親戚一同が集まって大歓迎会をしてくれた。この街は何の観光名所もないがそれが却って落ち着いた雰囲気を出している私の好きな街である。お世話になった夫婦の息子が経営する牧場に行き牛に触ってみたり搾ったばかりの源乳を味わってみたりした。



知人の牧場、子羊とのたわむれ

この国は南半球にあるので北へ行くほど暖かになる。ベイオブアイランドにあるパイヒアにはオークランドから大西洋の海に沿って北上した。オークランドから240キロ、3時間のドライブである。此処は暖かなマリリゾート、自然の景観が南国的雰囲気を感じさせていた。オークランドではセーターを着るほどの気候であったが此処ではビーチで泳いでいた。

今夜飲むビールを酒販店で買ったついでに「いい宿」はないかと尋ねたら2軒ほど紹介してくれた。早速この2軒を巡り部屋を見せて貰い、料金交渉をして海辺に近いホテルに決めた。この国のホテルは家族旅行を受け入れられるようにきちんとしたキッチンがついている。小さな町でもスーパーマーケットがあるのでそこで食材を買い自炊をしながら安く旅行ができる。私どもの場合は安さよりも体調管理のため自炊をしながら旅を続けた。因みに毎日の昼食は持参した梅干と海苔のオニギリ。

パイヒアの海には時々鯨も現れるがイルカが多く生息している。イルカと遊ぶツアーに参加して大いにイルカに遊んでもらった。



パイヒアの浜辺、知人夫妻と撮影
この女性は東京オリンピックの東洋の魔女

パイヒアからオークランドに南下するルートはタスマン海に沿ってドライブした。この北端の半島は

かってイギリスが植民する前、カウリと言う木の原生林であったという。しかし今では殆どが伐採されてしまってその面影は僅かになってしまっている。途中日本の縄文杉のような巨大なカウリの木に出会った。原住民マオリの「ご神木」で、きちんと管理されその姿は荘厳であった。僅か 200 年前・イギリスが植民する以前にはこんな巨木の原生林であったことを思い巡らすと、近代文明という社会が如何に環境破壊してきているかを思わざるを得ない。

【豊かな温泉と滝！】

タウポは北島のほぼ中央にあるこの国最大の湖。オークランドから 280 キロ南下する。ハミルトンから国道 5 号線で南下するとロトルアと言う町にでる。この国は日本と同様火山国で、今でも時々火山が噴火している。ロトルアは温泉町、勢いよく噴出す間欠泉や泥がボコボコ沸騰しているマッドプール、又温泉浴も楽しめる。

ロトルアから湯煙を眺めながら 1 時間程ドライブして目の前に湖があるモーターに宿を取った。冷たい風が吹きヤッケを着込むほどの寒さなのに湖で泳いでいる若者がいた。湖畔を散歩している時チョロチョロと流れ込んでいる水に手を入れたら何と温水であった。温水が至る所で湧き出し湖に注いでいる。火山地帯なのだ！タウポの唯一の流出口がこの国最大の河川ワイカト川、湖と川との落差の地点がフカ滝。川幅・落差は小さいが膨大な水量で見る者を圧倒する。



フカ滝、北島のタウポ湖出口の滝です

【ネピアってティシュペーパー？】

ネピアはタウポから 143 キロ国道 5 号線で南下した静かな町。ハミルトンで知り合ったネピア出身の男が、いい町だから是非行って見ろと言うので立ち寄った。70 余年前マグニチュード 7.9 の大地震に見舞われ、壊滅的な打撃を受けたのだが、復興時当時流行っていたアールデコ調で町を再建したと言う、なかなかレトロな街並みである。大きなパルプ工場があるとかで、日本で市売されているティッシ

ュペーパーのネピアの語源はこの町に由来するとか。

【量り売りの地ビール！】

ウエリントンはこの国の首都、「風の街」として知られている。ネピアから約 350 キロ、途中ウッドビルと言う小さな町で持参のオニギリ弁当を食べている時、この国ではビールを量り売りしてくれるのだと思い出した。定量容器を持っていきテイクアウトと言うと好きな銘柄を量り売りしてくれる。同行の Y 氏、ビールがあればご飯は要らないと言うビール党。これが気に入って、この後旅の飲み物は全てテイクアウトのビールとなった。日本でもよく出回っているニュージーランド産のムール貝、スーパーで「燻製のムール貝」を買ったらビールの肴にピッタリ、ビールとムール貝の組み合わせが旅の間終始した。ウエリントンでの宿は「領主の館」を改装してモーターにしたような佇まい。調度品も品があってとても快適な宿であった。

ウエリントンは北島の最南端の都市、南島へはフェリーが出ている。フェリー乗り場の近くでレンタカーを返した。勿論料金は取られるのだが乗り捨て出来るのは旅の者には好都合。クック海峡は風の強いことで知られているが幸い大きな揺れも無く 3 時間の船旅で南島の北端、ピクトンに着。フェリーで気が付いた事のひとつにドイツ語のパンフレットがやけに目に付いたことである。乗船客にもドイツ人が多く、あちこちでドイツ語を耳にした。ニュージーランドの牧場では鹿を放牧しているのをよく目にしたが、主に鹿肉の好きなドイツに輸出しているとの事だったので、何かドイツと深い縁があるのかも知れない。

【別荘に泊まった！】

ピクトンは本当に小さな町、ターミナル内にあるレンタカーの事務所で手続きして今度は 8 人乗りのワンボックス車を借りた。北島の旅は 2 夫婦であったが南島の旅は 3 夫婦 6 人の旅となるので。

この国の観光の中心は南島、北島とすっかり景観が違う。国道 1 号線を南下して行くと河原がまっ黄色のルピナスの絨毯に覆われている。走行する車が少ないのに橋の手前で車が列をなしている。橋幅が 1 車線しかないので交互通行をしているのだ。南島ではいくつもこのような橋に出くわしたがそこはジェントルマンシップ、お互い上手に譲り合っていた。

海沿いに暫く走ると大きな岩のある海岸近くに数台の車が止まっていた。肌の色が岩と同色で分り辛かったがアシカのコロニーだった。又すぐその近くに海水の盛り上がりを目にした。魚の群れが海水を盛り上げているのだ。若者がその群れに釣針をなげ入れたら 50 センチもある鱸のような魚が引っ掛か

った。

クライストチャーチまで行くと夕刻になってしま
うので、カイコーウラと言う町で宿をとることにし
た。この町はホエールウォッチングで有名な町であ
るが極小さな町。しかし町の規模にしては車の数が
多い。観光案内所で質したら今日はクライストチャ
ーチの祝日で人出が多いのだとのこと。列に並んで
宿の紹介の順番を待ったが、みな何処も満杯で紹介
できる所はないと断られている。宿が無くては困る
のでこちらは何とかしてくれと必死でお願いした。
宿ではなかったが管理を案内所に委託している別荘
があった。そんな所でもよいかと言うので、勿論
OK して別荘を借りた。この別荘、小高い丘の上
にあって正面に広々とした青い海、左手には雪を頂い
た山々、暖炉もついた素晴らしい家だった。

クライストチャーチはガーデンシティーとして世
界的に有名な都市である。ガイドブックや映像で多
く紹介されているので詳細は省略。ここから一夫婦
が加わり三夫婦 6 人の旅となった。何れもアルコー
ルの好きな亭主ばかり、毎夜宴会の連続となった。

【トルコブルーに輝く湖！】

ニュージーランドの旅はクライストチャーチから
始まると私は言いたい。沿道に咲く春の美しい花を
眺めながらマウントクックに向かって走るとトルコ
ブルーに輝く湖、テカポが現れる。表現のしよ
うの無い美しさ、カナダでも目にした氷河を源流とする
あの水の色である。湖畔の高台に小さな石造りの「善
き羊飼いの教会」、そこから湖に向かって一面カラ
フルなルピナスの絨毯、本当に絵になる光景だ。人口
200 人と言う小さな町、それでもちゃんとホテルも
モーテルもそしてパブもあった。我々は湖に面した
モーテルに宿をとった。



テカポ湖畔
野生のルピナスと湖畔に建つ小さな教会

マウントクックはこの旅一番の目的地、好天だ
たので早々に昼食を済ませて出発。テカポ湖の隣に
あるブカキ湖を右に見ながら数 10 キロドライブ。
この湖もやはりトルコブルー。数 10 キロ先・湖の

最奥の方に水しぶきのような景色が見える。段々風
が強くなり、向かい風。車高の高い車が 100 キロの
スピードで走っているのに向かい風。時々ハンドル
を取られる。マウントクックは雨、マウントクック
リリーを求めてトレッキング等と胸を膨らませてい
たが潰えた。



ブカキ湖、南島マウントクック手前の湖、
トルコブルーの水の輝き

【突然の降雪！】

国道 8 号線は南島の背骨を縦走する街道、早朝モ
ーテルを出発しオママルと言う地点あたりで急に空
が曇り出す。外気温が急速に下がって、そして雪が
降り出した。我々の車は平地用のノーマルタイヤ。
街道はアップダウンとカーブの連続、ハンドルを握
る手に汗。1 時間程冷や汗を掻きながら平地に來た
らもう青空。山間地の気候変動の激しさを肌で感じ
た。

山間地、牧場、湖を車窓から眺めながらテカポか
ら 430 キロのドライブでテアナウ湖に到着、今回の
旅で最長のドライブであった。テアナウ湖は南島最
大の湖。ミルフォードサウンドツアーの基地になる
町である。3 夫婦泊まれるモーテルはなくまた貸し
別荘を借りた。緯度はほぼ稚内と同じ、春浅い夕暮
れはとても冷え込んだ。

【さすが世界遺産！】

テアナウから 120 キロほど北西に行くと世界遺産
に登録されているミルフォードサウンド、氷河によ
って創られた美しい入り江、この国第一の人気観光
地。雨の多い所で三日に一日しか晴れないと言うの
に我々は運良く終日晴天だった。切り立つ山々に挟
まれた細長い入り江、絶壁を落下する滝、イルカ・
オットセイ・ペンギンとの出会い、最高のクルージ
ングだった。絶壁から降り注ぐ水を集めて飲めば幸
せになれると誰かが言ったら、同行の Y 氏、傘を逆
さにして水を集めた。その姿を船内放送されて乗客
一同大笑い。

テアナウから 170 キロ程北に戻るとクインズタ
ウン、かつて周辺がゴールドラッシュに沸いた頃女王

が住むにふさわしい場所としてこの名がついたと言う。観光ツアーの人気ポイント、人出が多く町には日本人観光客がゴロゴロ。日本語が通じる町になってしまって物価が物凄く高い。

クインズタウンからワナカ湖、ハウエア湖へドライブした。何れもトルコブルーの美しい湖だったが、ハウエア湖まで足を運ぶ観光客は殆ど無く、湖・大自然を一人占めした。

【スコットランド?】

クインズタウンからワナカ湖、ハウエア湖を源流とする美しい流れの川に沿って南下、1号線に合流した地点から北上するとダニーデン。スコットランドの雰囲気を醸し出す静かな町、私好みの町。この国最古の大学・オタゴ大学、美しいキャンパスだった。ダニーデン駅、もうすっかり鉄道は廃れてしまったが駅舎は往時の姿がそのまま残っていた。

ダニーデンから1時間程半島の先端までドライブすると世界的に有名な「イエローアイベンギン」の保護区がある。要塞のような半地下のトンネルからペンギンを観察出来るようになっているのだが、生憎の雨と寒さで期待通りには行かなかった。しかし、同じツアーに参加していたアメリカから来たと言う婦人は希少なものを間近に見ることが出来たと感激していた。

ダニーデンからクライストチャーチへ戻る途中オアマルと言う町に立ち寄り「ブルーペンギン」を観

察、そして昼食をとったが整然として美しい街だった。

【骨休め!】

3週間に亘るドライブ旅行は初老の身にはやはり疲れとなって表れる。帰国前少しのんびりしようとクライストチャーチ郊外のリゾート地アカロアに宿をとった。この国で唯一フランス人が入植した所で、地中海の雰囲気が漂うフレンチベイ、そしてフランス風の家並み、雲ひとつ無い青空の下、海に面したベランダでテイクアウトした地ビールで乾杯、美味かったし疲れも吹き飛んだ。

クライストチャーチの空港でレンタカーを返却、全走行距離5,000キロ。それでもまだ廻ることが出来ない景勝地が多々ある。ニュージーランドの人との触れ合いは多くは無かったが優しい人ばかりだった。この国の人々は大自然を愛し、積極的に保護している。

スイスに勝る景勝の連続、機会を見つけて再度こんな手作りの旅に挑戦したい。

PS.: もしこんな旅をやってみたいと思われる方、小生宛ご連絡ください。

多少のお役に立つ情報を差し上げることが出来るかもしれません。

tamryo@yhb.att.ne.jp にどうぞ。

掲示板

第11回市民環境活動報告会が開催されます
実行委員長 黒澤 宏

今年も市民環境活動報告会の季節が巡ってきました。第11回目の今年は、これまでのK・リーダー会、地球温暖化防止活動推進員、かながわ環境カウンセラー協議会の他に、一般市民の方の発表が加わったこと、新しい試みとしてポスターセッションを行うことになり、K・リーダー会から4部会と他の2団体が参加します。

詳しい内容は、同封のチラシをご覧ください。

又報告会終了後には、交流会を予定しておりますので、皆様のご来場をお待ちしております。

開催日: 2005年2月19日(土) 10:00~16:10

場所: かながわ県民センター 2階ホール

交流会は17時からの予定です。(詳細は当日受付でお知らせします)

編集後記

昨年秋の環境実践者養成講座を修了されて当会に入会された方の約半数にあたる8名もの多くの方から今号の「会員の広場」へ寄稿していただきました。うれしいことです。有難うございました。

また、会員の田村了一さんから「ニュージーランド旅行記」を寄稿していただきました。この旅行記のように、環境活動そのものでないことも寄稿していただくと会報の内容がにぎやかになって良いと思います。

多くの皆さんから幅広い分野の寄稿をいただけることを期待しています。

広報部 羽生田 洋啓

発行人: 神奈川県環境学習リーダー会

代表 近藤 作司

編集人: 広報部長 黒澤 宏

TEL/FAX 0463-88-5193

発行日: 2005年1月31日